

健康登山62: 自然歩道32 (関駅～石水溪～亀山駅)

コース	関駅 沓掛歩道橋 2.6km/42 0.6km/18 路傍休憩所 0.9/28 シカ高原 0.6km/15	坂下 1.6km/40 鉄塔 3.3km/61 安楽峠 5.7m/93	片山神社 0.4km/22 上林神社 1.9km/57 池山西バス停 亀山駅	鈴鹿峠 カモ
水平距離	17.6km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		
水平換算距離	18.8km			
累計高低差	登り845m、下り883m			
標準歩行時間	6:16			
実績歩行時間	5:48			



山行報告

山行日 2011・2・3 (木) 天候 晴 参加者 5名

行動 京都駅7:41 関駅9:14 沓掛歩道橋9:35 坂下10:12 片山神社10:56 鈴鹿峠11:12 鏡岩11:22 路傍休憩所11:33~12:02 鉄塔12:35 上林神社13:45 カモシカ高原14:38 安楽峠15:06 石水溪15:55 池山バス停16:22 亀山駅17:00 (泊)

記録

大寒波が去って3月上旬並みの暖かいハイキング日和に恵まれ幸運だった。
 関駅からタクシーで国道1号線の沓掛歩道橋まで行き、自然歩道の前回の続きを歩いた。
 沓掛、坂下集落を通り、鈴鹿峠を越えてカモシカ高原に登り、安楽峠から石水溪を経て池山西バス停まで18kmの長距離コースである。
 出発地点に鈴鹿峠5.2kmの道標があり、周りの杉木立はスギ花粉で枯木のような色をしている。沓掛には昔の東海道の面影を残す家並みが残っている。その家並み越しに三子山が青空に浮かび、南峰の左肩に送電線の鉄塔が見える。東海自然歩道はその鉄塔下を通るので周辺の山として登ってみたいと思いながら歩いた。
 坂下を過ぎて山道を少し歩くと片山神社に着き、さらに登ると国道1号線の下をくぐって鈴鹿峠につく。峠には『ほっしんの 初にこゆる 鈴鹿山』芭蕉 という句碑がある。
 また高畑山1時間20分、三子山65分という道標もあり、次回周辺の山として登ることにした。
 今回は鏡岩に立ち寄った後、茶畑に囲まれた路傍休憩所で昼食をした。
 沓掛から仰ぎ見た鉄塔のある標高450mの三子山分岐から北斜面を山女原(あけびはら)集落へ下るのだが雪道になりストックが役立った。山女原の上林神社で休憩後、カモシカ高原に登った。カモシカ高原は残雪に覆われた樹林帯で期待したほど展望はよくなかった。しかし安楽峠へ下る途中に伊勢湾が一望できる場所があった。
 安楽峠からは舗装された林道を下るのだが圧雪状態で滑りやすく路肩の柔らかい雪を選びながら気をつけて歩いた。臼杵山の登り口を過ぎ、正面に鬼ヶ牙の岩山が見えると間もなく石水溪となる。バスの時間が気になるので急ぎ足で池山西バス停へ向かった。
 コミュニティバスに乗り17時に亀山駅に着いた。駅近くの亀山第一ホテルで宿泊した。

自然歩道 (関駅～鈴鹿峠～亀山駅)



鈴鹿峠へ向う
正面は三子山
10:00



鈴鹿峠鏡岩
からの風景
11:23



鈴鹿峠の
路傍休憩所
11:45



山女原へ下る
13:35



山女原集落の
上林神社
13:54



カモシカ高原
14:38



安楽峠へ向う
14:42



奇岩鬼ヶ牙
15:47



石水溪谷
15:48



石水溪口
分岐の道標
16:10

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：関駅～鈴鹿峠～石水溪～亀山駅）

参考資料 ホームページ他より

^{さかのした}坂下宿：東海道五十三次の48番目の宿場町。もとは鈴鹿峠の麓にあり、片山神社の参道辺りにあり、峠の下で坂下と名がついた。慶安3年(1650)に大洪水、土石流で宿場が壊滅し翌年に現在地に移りました。
天保14年(1843)の記述では、総家数153軒(旅籠48軒含む)、宿内人564人、本陣3軒、脇本陣1軒。旅籠数48軒は箱根宿に次ぐ規模だったそうです。
近年、蒸気機関車が峠を登れず、鉄道は峠から外れて敷かれ宿場は廃れました。

一里塚跡：片山神社の向かい側(坂下市瀬)に石柱があります。(一里=3,927km)
旅人のための里程標となった。盛り土した塚に榎などの木を植えられたもので、江戸時代に全国的に整備されました。東海道に幾つか現存しています。

片山神社：延喜式内社。祭神：倭比売命。(明治元年、明治天皇も御行幸されています)
配祀：瀬織津比売神、気吹戸主神、速佐瀬良比売神(以上三子山の神)
合祀：坂上田村麻呂、天照大神。須佐之男命、市杵島姫命、大山津神。
もとは「三子山」に祀られていたが、永仁5年(1297)水害や山火事で翌年現地に遷る。江戸時代は鈴鹿大明神、鈴鹿御前、鈴鹿権現と称していた。
2002年の放火で本殿が焼失しました。(火事や水害の神様)

田村神社跡：坂上田村麻呂を祀った。今は片山神社に合祀されています。

【鈴鹿御前の話】

鈴鹿山に住む鬼神「大嶽丸」の討伐を命じられた坂上田村麻呂に、自分たちを退治しに来た田村麻呂に惚れ、協力して退治する。

「鈴鹿の草子」「田村の草子」「古今著聞集」「謡曲、田村」などに登場する伝説上の女性。女盗賊であったり、鬼女であったり、天女であったりする。

* 魔神の妻であったが田村麻呂に惚れ夫婦になる。

* 東北の大嶽丸と組んで日本転覆を企んだが、田村麻呂と共に戦い鬼たちを退治する。

* 悪路王 = 蝦夷の王「阿弓流為」の別名。田村麻呂に条件降伏したが朝廷は受け入れず処刑される。立烏帽子はその娘。(清水寺境内に顕彰碑があります)

* 田村麻呂は鈴鹿御前(天女)の神通力により鬼神たち大嶽丸、立烏帽子を退治する。(立烏帽子は田村麻呂と協力する話もある)

法安寺：山門は坂下宿に有った松屋本陣から移築されたものです。
当時の本陣の遺構で、格式の高さがうかがえる。

鈴鹿馬子唄会館：坂下宿についての資料を展示。無料。

鏡岩 かがみ いわ：鈴鹿峠の南西側急斜面に県指定天然記念物の「鈴鹿山の鏡岩」がある。別名「鬼の姿見」と言われます。立烏帽子という鬼女が鏡代わりに使ったと伝え、同時に山賊がこの岩に映った旅人を襲ったという伝説もあります。一面に青黒く光る鏡肌であつたらしいが、明治初年の山火事で岩が損傷し、風化、採取などで現在は明瞭な鏡肌は見られない。
(珪岩が断層によって擦れたものと考えられています)

鈴鹿峠：標高 378m。箱根峠と並ぶ東海道有数の難所。鈴鹿山脈南端にある。仁和 2 年(886)に開通した古い峠。[歴史の道百選]に選ばれています。飛鳥時代大宝元年(701)に鈴鹿関が置かれたが、延暦 8 年(789)廃された。
(また**鈴鹿関址**は、関宿観音寺山公園辺りとされ 2006 年発掘調査中です)

万人講常夜燈：R1 号線鈴鹿トンネル入り口の真上にあります。四国金毘羅神社の灯籠で、江戸時代中期約 270 年前に鈴鹿峠に建てられ、往来する行商人信者が常夜燈に火を燈し、伊勢の海向こうの四国金毘羅神社に航海と、道中の安全を祈願されていた。石灯籠は高さ 5,5m、重さ 38 t あります。地元中村、坂下宿、甲賀谷の人達 3000 人奉仕で出来上がったといわれています。鈴鹿トンネル建設のため現在地に移されました。脇に東海自然歩道「鈴鹿路傍休憩所」がありトイレも設置されています。

三子山：鈴鹿山脈南端鈴鹿峠脇にあり、よく似た三つの丸い峰が並んでいる。(南) 峰 540m、(中) 峰 556m、(北) 峰 568m。特徴ある山容から鈴鹿峠方面の目印にもなっていた。「片山神社」に配祀されている三神は、元は三子山山頂に祀られていました。現在南峰(峰)山頂には磐座があり往時を偲ばせます。三子山は東海自然歩道に面して登山口があり四方草山(塩普山)、霧ヶ岳を経由して東海自然歩道の安楽越まで縦走コースがあります。

山女原 あけびはら：滋賀県土山町。東海自然歩道は鈴鹿峠を越えると一旦滋賀県に入ります。山女原集落は訛って「あけんばら」と呼ばれることもある。東海道鈴鹿越えの間道に面し、長者村と呼ばれるほど栄えた。集落の上林神社で 4 月第 3 日曜に県無形文化財の花笠を被って輪になって踊る「黒川の太鼓踊」が行われます。

安楽越：滋賀土山と三重亀山の池山を結ぶ安楽林道(舗装路)による峠越えの道。

ほぼ並行して「安楽古道」があり、数10年前まで車道ができるまで地域の人たちの交易道でした。昔は鈴鹿の間道で通行する旅人も多かった。

鈴鹿峠に比べ「楽に峠を越えられた」ので「安楽」と呼ばれた。

「羽柴秀吉」は本能寺の変後、対立した伊勢の城主「滝川一益」を伊勢に攻め入ったときに3万5千の大軍で安楽越え通るが、地形を生かした滝川軍の要撃で苦戦しています。奇峰「鬼ヶ牙」近辺から石水溪が戦場だといわれています。

「安楽古道」はハイキング道として現存しています。HP「魅惑の安楽道」を見てください。

鬼ヶ牙 : 東海自然歩道の安楽川対岸にある岩峰(488m)で特異な地学景観となっています。荒々しい岩肌は「鬼の牙」を連想させるといいます。石水溪のシンボルです。

石水溪 : 安楽川上流の溪谷。仙ヶ岳南峰が源流で、花崗岩の間を縫う溪流は水生生物が棲み、亀山市内随一の景勝地です。
キャンプ場も置かれ、東海自然歩道が通っています。
鈴鹿山系の仙ヶ岳(961m)への登山口でもあります。